

きのうトーク1分チャット【生徒用・課題カード】

Class _____ No. _____ Name _____

 **ゴール:** 「きのう・週末」について、ペアで1分間会話を続けられる

場面 月曜の朝の教室。週末の話で1分間、英語の会話をつなげよう。話が続けることがゴール！

スタートの質問: What did you do yesterday? そのあとは自由。
使える技: Really? / Me too! / How was it? — It was ~. / Did you ~?

ルール: 沈黙5秒でタイムアップ。日本語は1回まで(すぐ英語に戻ればOK)。

準備 テストまでにすること(帯活動2週間)

帯の「しゃべりつづけマラソン」で週末トークを回しておく。過去形の頻出動詞15語(went/ate/saw/played...)をフラッシュ暗唱。

本番 時間: ペアで1分×評価は同時進行 / 評価: 4観点×3段階(12点)

達成	相手に伝わったか・目的をはたせたか(いちばん大事！)
正確さ	今回の言語材料が正しく使えたか
流暢さ	止まらずに続けられたか(完ぺきでなくてOK、リカバリーも実力)
態度・やり取り	あいづち・聞き返し・相手への質問があったか

✓ 聞き返し(Pardon? / One more time, please.)は減点ではなく加点。本物の会話の技だから、遠りよなく使おう。

ねらい このテストは何を・なぜ測るのか

測る力	過去の出来事について、会話を続ける力(時制運用×対話継続の複合)
なぜ必要か	中1最後の文法・過去形は、会話で使えて初めて完成する。「1分続ける」という時間目標は、正確さ偏重の生徒に流暢さの価値を、沈黙しがちな生徒にリカバリー表現の価値を教える。帯活動の成果測定としても機能する。

評価 ルーブリック(B列＝評価規準「おおむね満足の姿」。採点前に一読してから始める)

達成	A(3点) 1分間会話が続き、話題が発展した	B(2点)＝評価規準 1分近く続いた(沈黙があっても復活できた)	C(1点) 30秒未満で停止
正確さ	A(3点) 過去形が正しく使えた	B(2点)＝評価規準 誤り(good等)はあるが通じ、言い直しもできた	C(1点) 時制が崩れて通じない
流暢さ	A(3点) テンポのよい往復	B(2点)＝評価規準 ゆっくりでも往復が続く	C(1点) 一方通行
態度	A(3点) あいづち・追加質問が自然	B(2点)＝評価規準 相手の話を聞いて反応	C(1点) 反応がない

✓ C→Bの手立て:「質問カード」を持ってよいことにして再挑戦(カードを見る＝減点にしない)

運用 当日の流れ(1コマで全ペア(教師は巡回で2～3ペアずつ評価))

1	ルーブリック(このページ)のB列を一読してから開始——「おおむね満足の姿」を採点の物差しとして頭に置く
2	課題カード(1ページ目)の場面と評価観点を全体で確認(2分)。聞き返しは加点、と必ず伝える
3	順番票にしたがって実施(ペアで1分×評価は同時進行)。採点はその場で記録シートに○をつけるだけ
4	待ち時間の生徒には観察メモ(よかった表現を1つ書く)または自習課題を指定
5	全員終了後、よかった例を2～3、名前を挙げてほめて締める(次回への空気づくり)

☆運用のコツ 全ペア一斉→教師が2～3ペアずつ近くで評価する方式なら1コマで完了。録音(タブレット)しておくで評価の証拠と生徒のふり返し材料が同時に手に入ります。

記録

その場で○をつけるだけ(A=3 B=2 C=1)

名前	達成	正確さ	流暢さ	態度	計	メモ(次への一言)
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	

✓ 印刷して名簿順に並べておくと、テスト中の記入が3秒で済みます。「メモ」は返却時のフィードバックの種——1語でOK。